

## 兵庫県のスジボソヤマキチョウ

広畑政巳

### 1. はじめに

県下ではメスジロキチョウ、ウラナミシロチョウ、ウスキシロチョウ、タイワンモンシロチョウの迷蝶4種を含め12種のシロチョウ科の蝶が採集されている。その中でも本種は生息地が限定されるものの比較的広く分布しているものと考えられていたが、採集記録をまとめてみると、ことの外報告が少なく、分布の空白地域が目立っている。

これは本種が地域変異、個体変異が少なく関心を持つ同好者が少ないことに起因しているものと思われる。

採集記録をまとめるに当たり同好の方々に記録を聞いてみると、採集や目撃記録もかなり出てくることから、まだまだ多くの採集記録が未発表のままになっていると思われる。本稿ではこれまでに発表された採集記録と未発表の記録、そして筆者の数少ない知見も併せてまとめてみたが中途半端なものになってしまい、問題提起程度にとどまった。この点は御容赦願ひ不足分を補っていただきたいと思う次第である。

### 2. 県下に於ける分布の概要

本種の県下に於ける最初の採集記録は山本(1971)によると1907年にヤマキチョウの名で佐用郡下から得られたとの報告がある。

筆者の知る限りでは県下で90数カ所で本種が採集及び目撃されている。その分布域は、川西市、猪名川町など県下南東部の限られた地域と、上郡町から佐用町にかけての南西部、そして豊岡市、温泉町、日高町、村岡町など北部の地域から多くの記録が報告されている。

しかし、西脇市など東播磨地域、丹波地域、山崎町から養父町にかけての中部地域からの採集記録は少なく散見するにとどまっている(図1)。

丹波地域からは丹波昆虫同好会(1957)に本種が記録されており、「3月下旬から出現し年1回の

発生」と記述されており、西紀町東樹之部以外に記録もあるように思われる。

南限の記録は赤穂市尾崎、神戸市山の街、摩耶山又は六甲山があるが、摩耶山、六甲山の記録は兵庫県立神戸高校生物研究会の会誌 MAIMAI に六甲山、摩耶山の蝶として発表されており、「六甲山系での記録は多いがまだお目にかかったことはない(発表者は)」となっている。

山本(1971)によると六甲山からは未知となっており、その後筆者の知る限りでは生息が確認されたという話は聞かない。六甲山系の記録同様赤穂市からもその後記録はない。

食樹のコバノクロウメモドキは群落で生育しているところは少ないが、比較的広く分布しており、これまで採集記録のない地域からも食樹の生育が知られているので本種が生息していても不思議ではない。

垂直分布は赤穂市尾崎や豊岡市栃江、宮井、上月町上秋里など標高100m前後の低山地から氷ノ山や扇ノ山のように1,000mを越す山地まで見られるが、100~300mにかけての生息地が分布の中心となっている。

県下の採集記録を各産地ごとに1例ずつあげると次の通りになる。地名の表示が同一場所で別名で報告されていることがあり、次の記録の中にもこの例があると思われるがそのまま記載している。

#### <採集記録>

神戸市摩耶山,六甲山 <sup>1)</sup>	-	-	-
〃 北区山の街 1♂	23-IX-1952	加藤昌宏 <sup>33)</sup>	
川西市黒川(妙見新滝) 1♂2♀	24-X-1993	大東康人	
〃 多田 <sup>2)</sup>	-	-	-
〃 笹部	18-X-1981	仲田 <sup>12)</sup>	
猪名川町上阿古谷 1♀	26-III-1986	黒田 <sup>18)</sup> <sup>2)</sup> <sup>12)</sup>	
〃 三草山	23-IX-1972	小坂利明 <sup>4)</sup>	
〃 木間生 <sup>2)</sup>	-	-	-

猪名川町槻並	-	15-IV-1979	小坂 <sup>12)</sup>
〃 栃原	-	30-VI-1984	〃
〃 民田	10♂3♀	21-V-1981	- <sup>15)</sup>
西脇市出合	-	- - 1964	高瀬康男
加美町三国岳 <sup>17)</sup>	-	-	-
福崎町 <sup>28)</sup> 七穂山	-	-	森下泰治
大河内町峰山	1♂	23-VII-1962	岩村 <sup>21)</sup>
安富町三坂	-	-	木村三郎
〃 関	1♀	15-VII-1962	尾崎 勇
波賀町水谷	1♂	20-VII-1986	二宗 <sup>16)</sup>
〃 道谷	3♂1♀	3-X-1982	広畑政巳
〃 音水	2♂	28-IX-1961	尾崎 勇
〃 原	-	-	相坂耕作
〃 赤西溪谷	-	-	花岡 正
千種町鷹巣	1♂	12-VII-1981	広畑政巳
相生市三濃山	4♂1♀	28-VII-1965	米村 <sup>23)</sup>
赤穂市尾崎	1♀	6-IX-1963	北条 <sup>23)</sup>
上郡町鍋倉	1♂	30-III-1963	岩村 <sup>23)</sup>
〃 大杉野	1♀	3-X-1966	米村 <sup>23)</sup>
〃 富満	1♂	30-IX-1975	相坂耕作
〃 鞍居	-	29-III-1963	石垣 <sup>23)</sup>
〃 白旗山	1♀	8-X-1967	豆鞆 <sup>23)</sup>
〃 大鳴溪谷	1♂1♀	11-X-1993	大東康人
〃 黒石	-	-	花岡 正
佐用町上石井	2♂	16-VI-1974	森下泰治
〃 下石井	2♂	16-VI-1974	広畑政巳
〃 若洲	2♂	22-VI-1980	〃
〃 育木	1♂	23-VI-1963	岩村 巖
〃 日名倉山	2♂1♀	14-VII-1969	尾崎 勇
〃 海内	-	-	黒田 収
三日月町大畑	1♀	11-X-1995	唐土洋一
上月町久崎	1♂	16-VI-1962	岩村 <sup>21)</sup>
〃 西新宿	1♂	25-IX-1995	高島 <sup>11)</sup>
〃 上秋里	2♂2♀	24-VI-1984	墨谷 <sup>18)</sup>
〃 下秋里	-	19-VI-1984	竹内 亮
〃 櫛田 卵	-	-	花岡 正
和田山町玉置	1ex.	30-III-1984	山崎 <sup>14)</sup>
生野町栃原ロッジ	1♂	18-VI-1963	西村 <sup>22)</sup>
八鹿町妙見山 <sup>7)</sup>	-	-	-

関宮町杉ヶ沢高原	1♂	26-VI-1977	広畑政巳
〃 鉢伏山	-	5-VII-1981	竹内 亮
〃 氷ノ山東尾根	1♂	25-VII-1986	永幡嘉之
豊岡市伊賀谷	1♂	15-X-1989	宮垣 <sup>10)</sup>
〃 栃江	1♂	2-X-1991	〃
〃 妙楽寺	1♂	2-X-1978	木下 <sup>14)</sup>
〃 宮井	1♀	14-IV-1980	〃
〃 赤石	2♂	17-X-1983	前平 <sup>14)</sup>
〃 下鶴井 <sup>7)</sup>	-	-	-
出石町東床ノ尾山	1♂	1-VII-1977	木下 <sup>14)</sup>
城崎町来日	1♂	19-VI-1975	木下 <sup>14)</sup>
〃 来日岳山頂	2♂	2-IX-1980	木下 <sup>14)</sup>
日高町神鍋山	1♂(撮)	21-VI-1991	木下賢司
〃 三川山頂上	1♂	6-V-1995	大竹隆明
〃 金谷	1♀	25-VI-1963	木下 <sup>14)</sup>
〃 栃本	1♂	27-VI-1980	福井 <sup>14)</sup>
〃 名色林道	1♀	26-VII-1985	木下 <sup>14)</sup>
〃 大岡山	1♂	28-VI-1963	木下 <sup>14)</sup>
〃 蘇武岳 <sup>7)</sup>	-	-	-

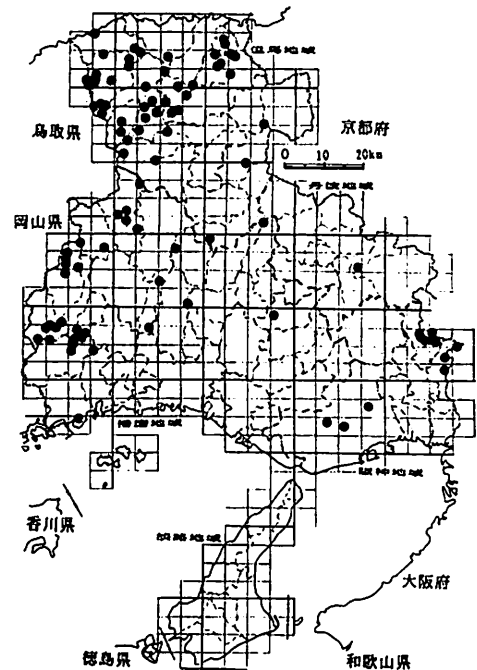


図1 兵庫県に於けるスジボソヤマキチョウの分布

日高町阿瀬溪谷	5卵	25-IV-1982	広畑政巳
香住町三川	1♀(目)	5-IV-1994	永幡嘉之
浜坂町城山	1ex.	9-VII-1986	黒井 <sup>9)</sup>
〃 久斗山	1♂(目)	3-IV-1993	永幡嘉之
〃 本谷	1♂(目)	19-IV-1993	〃
美方町鍛冶屋	2♀	21-IV-1992	〃
〃 氷ノ山	1♂	4-VIII-1946	山本 <sup>20)</sup>
〃 備	1♂	30-IX-1995	永幡嘉之
温泉町上山高原	1♀	29-VI-1991	永幡 <sup>13)</sup>
〃 美原	1ex.	4-VII-1981	黒井 <sup>14)</sup>
〃 畑ヶ平	2♂1♀	11-VII-1984	前平 <sup>14)</sup>
〃 蒲生峠	1ex.	16-VI-1985	黒井 <sup>14)</sup>
〃 霧ヶ滝	1♂	29-IV-1992	永幡嘉之
〃 槍尾	1♂	18-IV-1992	〃
〃 扇ノ山小ヅッコ	1♂1♀	27-VII-1992	〃
〃 後山	1♂(撮)	20-IX-1993	〃
〃 丹土	1♂(撮)	21-X-1993	〃
〃 伊角	1♂(目)	20-IV-1993	〃
〃 牛が峰山山頂	1♀(目)	20-IV-1993	〃
〃 越坂	1♀(目)	20-IV-1993	〃
〃 内山	1♂(目)	18-III-1994	〃
〃 千谷	1♀(目)	18-III-1994	〃
村岡町燿山	1♂	7-VII-1981	福井 <sup>14)</sup>
〃 大笹	2♂	3-VII-1984	木下 <sup>14)</sup>
〃 兎和野高原	-	1-VII-1984	竹内 亮
〃 和佐父	1♂	18-VI-1992	永幡嘉之

村岡町神坂	1♂	16-IV-1993	永幡嘉之
〃 村岡	1♂(目)	19-IX-1993	〃
西紀町東樹之部	-	-	壇野 薫

3. 成虫の活動と休眠について

本種の生息場所は当然のことながら食樹の生育する溪流沿いの雑木林とその周辺が多くなるが、雑木林から離れた草原や山頂付近でも見られるようになりかなり広い生活範囲をもっている。

成虫は表2でもわかるように越冬後低山地では3月中旬ごろから現れ、5月まで越冬個体が見られる。新成虫の発生は6月の中旬からで、7月上旬ごろまで成虫は活動する。その後県下でも9月中旬ごろまでは姿が見られず、その間の成虫の状況について確認されたという報告はないが、夏眠しているものと考えられている。

山地では4月中旬ごろ越冬個体が見れ、5月上旬ごろまで見られる。新成虫の発生は6月中旬ごろからになり(表1)、発生後夏眠することなく7月~10月上旬ごろまで活動するものと思われる。

福田(1975)によると越冬後の個体に見られる裏面のそばかす状のしみが、低山地の秋の個体の裏面にはすでに認められ、山地の秋の個体にはしみが見られないことから、低山地では夏眠によってしみがつき、山地では夏眠をしないのでつかないと推測している。

表1 山地に於ける月別採集件数

月性	3	4	5	6	7	8	9	10
♂		2 4	2	4 6	10 4 5	1 1	1 1 3	1
♀		3 1		3	1 3		1 1	

表2 低山地に於ける月別採集件数

月性	3	4	5	6	7	8	9	10
♂	2 4	3 5 1	1	7 8	4 1		1 4 9	8 9 3
♀	1 1		1	1 4	2 1		2 3	2 1

県下の場合しみの確認はできていないが、低山地では7月下旬～8月の活動が確認されていないこと、山地への季節移動が確認されていないことから夏眠していることは疑いない。

本種は飛翔力も強く移動は容易であると考えられるので、真夏には低山地から涼しい山地に、秋には逆に山地から低山地に移動する個体があるのではないかと思ひ、図2の通り月別、標高別の採集件数のグラフを作成してみた。この表を見る限り水平方向への移動はともかくとして季節による垂直方向への移動を決定づけるものは見あたらない。

産卵時期は香住町三川で4月上旬に観察されているが、4月中～下旬にかけて行われるのを多く確認している。

成虫の吸蜜植物はオカトラノオ<sup>12)</sup>、オトコエシ<sup>12)</sup>、ソバ<sup>12)</sup>、ケイトウ<sup>12)</sup>、ヨシノアザミ<sup>4)</sup>、ノアザミ、ツワブキなどがある。

休眠のメカニズム、交尾の時期、成虫の季節移動など生態面の課題はつきないが、まだ充分研究もされておらず、判らないことの方が多い。今後

これらの課題の解明が期待される。

#### 4. おわりに

県下の本種の分布を中心にまとめてみたが、地図上にプロットしてみると空白地帯が目立ち、調査ができていないことを痛感した。分布だけをとっても不十分な報告になったが、この資料を本種の基礎資料として不足分を補っていただきたい。

本稿が本種の生活史の解明の一助になれば幸いである。

本稿を草するに当り、但馬地方の多くの採集記録をご提供いただいた永幡嘉之氏に御礼を申し上げます。また次の方々には何かと御協力を賜った。

ここに記して御礼申し上げます。

近藤伸一、大東康人、相坂耕作、竹内 亮、徳岡正巳、高橋邦明、唐土洋一、木村三郎、西 隆広、花岡 正、黒田 取、小野克己、尾崎 勇、岩村 巖、浅田 卓、墨谷 健、谷川勝彦、稲田和久、山下剛史、森下泰治、木下賢司(順不同・敬称略)

#### <参考文献>

- 1) 田中利典(1969)六甲山、摩耶山の蝶 MAIMAI (1):3
- 2) 夏秋 優(1981)初谷のスジボソヤマキチョウ Crude(22):5
- 3) 有田 宥(1984)三草山における蝶相及び環境の変遷 Crude(25):5
- 4) 仲田元亮(1982)能勢の昆虫 自刊
- 5) 木下賢司(1979)床ノ尾山の蝶 IRATSUME(3):24
- 6) 島田真輔(1982)美方町の蝶 IRATSUME(6):26
- 7) 高橋 匡(1979)但馬地方昆虫目録 IRATSUME(3):44
- 9) 黒井和之(1988)浜坂町城山の蝶類 IRATSUME(12):12
- 10) 宮垣友洋(1995)豊岡市で採集した蝶・トンボ IRATSUME(19):28
- 11) 高島 昭(1995)上月町で採集した蝶2種の記録 きべりはむし23(2):36
- 12) 小坂利明(1994)猪名川流域の蝶 詩画工房・大阪

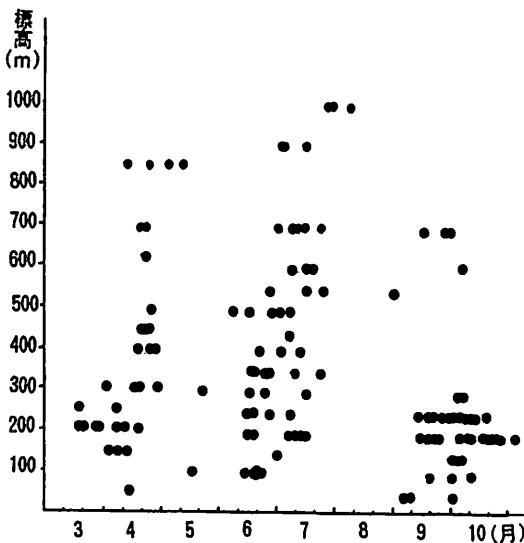


図2 標高別月別採集件数

- 13) 永橋嘉之(1992)夏の訪れ、兵庫の屋根・奥但馬にて 因幡のむし(27):53
- 14) 木下賢司・前平照雄・福井丈嗣(1986)但馬地域の蝶類目録 IRATSUME(10):63
- 15) 大阪昆虫同好会(1989)北摂の蝶
- 16) 二宗誠治(1987)昆虫研第1回調査会報告 ホシミスジ(1):3
- 17) 山口福男(1985)朝来群山市立自然公園の昆虫 朝来群山市立自然公園及び周辺地域の自然環境調査報告 兵庫県新観光課
- 18) 京都大学蝶類研究会(1987)日本産蝶類239種類の記録(上) SPINDA(2):26
- 19) 山本広一(1971)兵庫の蝶相 月刊むし(3):4
- 20) 山本広一・吉阪道雄(1958)兵庫県産蝶類目録(1) 兵庫生物3(4):235
- 21) 岩村 巖・中谷貴寿(1964)兵庫県における蝶類分布資料(3) 兵庫生物4(5):242
- 22) 西村公夫(1967)播州高原の蝶類について 兵庫生物5(3/4):226
- 23) 岩村 巖(1968)西播の蝶分布資料(5) 兵庫生物5(5):388-389
- 24) 石井為久(1980)福崎町の蝶 てんとうむし(6):26
- 25) 蝶研出版(1996)蝶類採集情報総集編
- 26) 渡辺通人(1989)ヤマキチョウ属についての疑問 日本の生物(3):61-68
- 27) 福田晴夫ほか(1982)原色日本蝶類生態図鑑 保育社 大阪
- 29) 丹波昆虫研究会(1957)丹波の蝶 丹波昆虫(3):7
- 30) 福田善明(1975)スジボソヤマキチョウの休眠に関する生理・生態について 栃木県の蝶124-127
- 31) 川元 裕(1993)1992年度採集記録 因幡のむし(28):16-18
- 32) 永橋嘉之(1994)但馬の蝶6題 IRATSUME(18):1-4
- 33) 加藤昌宏(1981)神戸の蝶 神戸市立教育研究所神戸
- (HIROHATA MASAMI 姫路市白鳥台3-11-8)

## オオルリボシヤンマの採集記録

蛭田 永規

昨年(1995)の夏から秋にかけては、主にタガメ、ゲンゴロウを探し回っていた。今では、ほとんど見られなくなった彼らにもう一度会いたくて、もし会うことが出来たら、そこがどのような環境にあるのか確かめたかった。

結局、昨年(1995)の夏は彼らと会うことは出来なかったが、その代わりにオオルリボシヤンマ *Aeshna nigroflava* Martin と生まれて初めて出会うことが出来たので報告する。

1995.9.24(日) 1♀(単産卵)

多可郡黒田庄町門柳

当地は、東はりま日時計の丘公園から1.5キロ北東へ行った標高150mの位置にあり、木立に覆われた約20㎡ほどの薄暗い小さな池である。(現在、農業用としては役に立っていないと思われる=いつ

潰されてもおかしくはない)

周辺は、谷地形を利用した水田地帯で、農業用のため池もある。(このため池で、同日シマゲンゴロウを採集した。3♀)

周辺の山は、ヒノキの植林、アカマツの二次林が広がっており、人の生活によって生み出された里山の景観が残っている。日当たりの良い開けた環境を好み、トンボの代名詞ともいえるギンヤンマとは対照的に昼間でも薄暗い環境のもとで人知れず産卵している雌の姿を見ていると、人にとっては価値の低い薄暗い小さな池でも里山の整備をしていく上では重要な要素として位置づける必要があるのではないかとあらためて感じた。

他には、オオアオイトトンボ(連結産卵)、タカネトンボ(縄張り占有飛行)、マユタテアカネ、リヌアカネを同日確認した。

(HIRUTA HISAKI 姫路市飾磨区阿成字黒石22-3 県職員住宅212号)